

家の返言次第信玄も心を決して了簡を不所應詞承知了
 まつりつと。すうも憚る気色なく。稟容を北條氏康。案不相
 違へり。多も。勘助晴幸がわを諒一くム理不中りぬ。何と
 命へ辞も多。夜曉るまで不返言せしと。起んとするも勘助
 かきつて。北條今川武田の三家。安危存亡ある律ハ唯所返答の
 次第あり。克く所賢慮あれと。今宵ハ山本晴幸も。北條
 の陣不止宿せり。又自氏康ハ夕深るまで。諸將と聚て評議一
 けるふ。只今川の一家さ。剛敵中て御座さ。巴さふ。増て武田の勢
 加らる。勝利と得ん律維らん。和議こそ萬全あると。評
 議一決りける。勘助入道と荐び招き。和睦承引せし譯と
 誓紙不記して返答せり。入道晴幸左右も喜び。惶と若て

執て返り。今川の陣不赴きけり。借義元の陣中。山縣三郎兵衛
 昌景。和談の律と謂投ける。義元快く是と諾ひ。三郎兵衛と
 響應し。山本勘助も茲不來り。氏康が返答の次第と舒。早
 速。這等の準備と調へ。翌日。両家富慈野ふかり。和睦の對面
 ありける。山本山縣。這と斟酌。以後。隔心と相加之む。通ふ救ひ合
 べき旨。盟約あり。和儀とのひ。北條父子の軍と纏め。小田原城へ
 歸陣し。これ。義元も。府中へ退馬し。武田の両士と厚く款待。
 深く謝して。還されける。然る。今川義元。這遭の軍和議して。
 戦飽む。日向矢輔の二雄と打拵。自方充分贏ありとて。
 喜悦の刺り酒宴と催し。諸士と拵ひ。功と賞美し。恩と賜る中。不
 就て。松平嘉兵衛尉之。綱へ。初度の軍の功名あり。伊藤日向守と